

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	656-2 商工業振興経費	会計	01	一般会計
		款	07	商工費
		項	01	商工費
基本 施策	45 住む人にとって魅力ある商店・商店街をつくる	目	02	商工業振興費
		細目	329	商工業振興経費
行革大綱の重点事項番号		6	細々目	51 商工業振興経費
担当部課	コード	191400		担当者 氏名
	名称	産業建設部商工労働観光課		
		連絡先	43 - 2306 (内線) 370	

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	伊賀市商工会	※対象件数
成果(どうする)	大山田地域の商業の活性化と振興が図れる。	
根拠法令・要綱等	支所関係係補助金等交付要綱	
開始年度	平成 12 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H21 事業 内容	公共性のある、産業振興センター運営費及び償還金を助成する。 大山田産業振興センター運営助成金 ・伊賀市商工会 5,500,000円 高度化資金償還助成金 ・伊賀市商工会 7,450,000円	
	社会情勢の 変化等	
平成8年度に中小企業高度化資金を活用し、大山田村と連携し大山田商工会が主体となり建設された。高度化資金の返済に関し、2階部分(地域住民ふれあいと文化交流のコミュニティ施設)の建設負担金として平成12年度から平成25年度まで助成している。また、センターの運営助成として平成16年度から助成金を交付している。平成20年度に大山田観光協会が撤退したことにより、センター直営によるさんさんマートを運営するも赤字である。平成22年度から受託販売手数料を15%から20%に改正した。		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
振興センター運営委員会開催数		回	目標	5	目標	5
			実績	10	実績	5
どんぐりホール開館日数		人	目標	335	目標	335
			実績	335	実績	335

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
どんぐりホール利用者数		利用頻度(人数)	人	目標	9000	目標	9000
				実績	8077	実績	6686
どんぐりホール利用日数		利用頻度(日数)	日	目標	200	目標	200
				実績	209	実績	195

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計(A)	11,950	12,950	12,450	12,150				
Aの 財源 内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他	0	0	0	0			
一般財源	11,950	12,950	12,450	12,150				
事業投入人件費(B)	0.2人 1,296	0.2人 1,440	0.2人 1,440	0.2人 1,440				
フルコスト(A)+(B)	13,246	14,390	13,890	13,590				

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人のみでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは地域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。 サービス水準や対象を見直す余地がある。	○
達成度	当初設定した計画を 80%以上100%未満 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】 予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 受益者負担を求めることができる事業である。 全体コストにおける負担構成は適正である。 コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	○

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	産業振興センター運営助成及び高度化資金償還助成: 公益性のあるコミュニティ施設であるどんぐりホールの有効な利活用を図るよう運営委員会等を通じて指導、助言していく。また、平成19年度より減免団体の見直しをさせ、一部団体の有料化を図った。しかし、利用者数が微減で助成金を見直すまでの収入増加にはつなげていない。企業振興会助成: 平成19年度までは助成する。以後の支援については組織のあり方と共に支援方法を検討する。
昨年度の 取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいない 【詳細】 さんさんマートの赤字に伴い、センター運営年次別改善計画を作成させ、特別助成を実施した。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	松本 浩典
事業の方向性	【方向性】 縮小 【理由】 建設に伴う借入金の返済が平成26年度に終了するため、償還金助成は平成26年度で終了とする。その後、どんぐりホールの運営状況等により運営助成金の縮小を検討する。
現時点における 課題、その他	観光協会の撤退により生じたさんさんマートの運営の黒字化が課題である。また、どんぐりホール等の利用向上が課題である。
課題、その他に 対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	建設時の借入金返済が終了したあと平成27年度までに自主運営できるよう指導する。